

正智深谷高等学校特別コラム

# Mind Charging

Since 2020

第339回

ジョン・ウッデン

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和5年1月27日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

Do not let what you cannot do  
interfere with what you can do.

出来ないことを出来ることの  
妨げにしてはいけない。

ジョン・ロバート・ウッデンは、アメリカ合衆国インディアナ州ホール出身の元バスケットボール選手、指導者。その卓越した指導力でUCLAを7連覇を含む10度の全米制覇に導き、「ウェストウッドの魔術師」「20世紀最高の指導者」と謳われた。選手としても、パデュー大学時代にオールアメリカンに3度選ばれた実力者であった。

## Column

私自身も指導の中で『できない理由を探してはいけない』という言葉を使うことがあります。自分で自分の成長を妨げるようなことをしてほしくないという思いからそのように伝えているのですが、今回の言葉を知った時に今まで以上に伝えられそうな表現が見つかったなと感じました。

私たちはメディアが発信する情報や、学校の授業や部活動などで教わる情報から“知識”として得ることで日々成長（アップデート）しています。その知識を有効活用できていることと、まだ活用まではできていないことがあると思います。現在、高校生であるみなさんがこれまでを振り返ってみて、幼い頃よりもできるようになったことの方が多いですね？なぜなら先に述べたように日々成長しているからです。ですが、幼い頃よりもできないことに対する感じ方は全く違うものになっているのではないのでしょうか。幼い頃はできないことの方が圧倒的に多かったことから、大げさにはなりませんが“できるようになりたい！”という好奇心が自分の心を占めていたと思います。しかし、現在はできなくても支障がない知識や技術も存在します。ですから面倒だとか苦手だという理由で覚えたい欲が高まらない時があるのです。それはかなり“もったいない”ことだと思います。知識もですが“物”も同じで現代に足りない物なんてないほど様々な物で溢れています。また、今までの物が進化して別の形になっているパターンがほとんどです。そういう意味ではできるようになったことが多ければ多いほどそれらが今後のみなさんの経験によって進化し、素晴らしい『武器』をたくさん持つ人になれると考えることができます。自分が自分の進化を一番妨げる存在であってはならないという“気づき”が重要です。自分の可能性に制限をかけず、好奇心というエネルギーをどんどん有効に使っていききたいものですね。